



キャンパス・コンソーシアム函館

合同公開講座

函館学 2020

第1回講義

講義資料

北海道開拓のはじめの一步！

「本願寺道路開削の背景」

講師：福島 憲成

函館大谷短期大学学長

日時：令和2年8月22日(土)

13:30～15:00

会場：函館大谷短期大学

主催：キャンパス・コンソーシアム函館



キャンパス・コンソーシアム函館

福島 憲成 (ふくしま のりしげ)

函館大谷短期大学教授・学長

真宗大谷派僧侶・児童劇作家

### 講師略歴

- 1947年 北海道生まれ
- 1972年 大谷大学大学院（真宗学専攻）修士課程修了  
京都光華女子学園光華高等学校教諭
- 1980年 「光る影絵」の新手法を考案  
・ 京都・大阪を中心に、アメリカ・中国・韓国などでの海外公演を含め、  
約900回の公演活動を行い、国際ソロプチミスト青年市民賞・  
京都府知事賞受賞
- 1989年 朝日新聞論壇「安易過ぎるサンボ絶版」で国内外に論議を巻き起こす。
- 1996年 光華女子学園を退職し、自坊に戻る。
- 1997年 朝日新朝日新聞論壇「ドラえものの大切なメッセージ」掲載
- 1999年 函館大谷女子短期大学助教授  
「保育専科」（フレーベル館）に「光で遊ぼう！ザ・ブラックシアター」  
などを掲載
- 2001年 函館大谷短期大学教授・副学長・附属幼稚園長
- 2003年 函館大谷短期大学 学長

## —北海道開拓のはじめの一步！—

### 本願寺道路開削の背景

現在の国道 230 号の基礎となった「本願寺道路」は、明治初年に東本願寺（真宗大谷派）が札幌（平岸）と胆振の尾去別（現伊達市）とを中山越えで結ぶ街道として、今から 150 年前の明治 3 年（1870）着工、明治 4 年（1871）に開通した北海道開拓道路の第一号道路である。

この道路開削は明治政府による北海道開拓政策の中心事業の一つで、建設は東本願寺によるもので、「本願寺街道」ともよばれる。

昭和 52 年（1977 年 11 月 2 日）浄土真宗の一年で最大の行事である「報恩講」を目前にして、東本願寺大師堂（親鸞聖人像が安置されている世界最大の木造建築のお堂）内で消火器爆弾が爆発し、床板や戸が爆風で飛ばされた事件があった。

その後、『闇の土蜘蛛』を名乗る犯人から「善人面した大悪党（真宗大谷派）を反日革命戦争の火の海で焼き尽くす」旨が記された犯行声明文がマスコミに配布された。

この事件が「アイヌモシリを侵略した報復」と「アイヌ解放」を目的とした行為とは言え、これは許されざる爆弾テロである。

しかし、東本願寺はこの事件をきっかけに、150 年前の北海道開拓道路開削及び東本願寺の北海道開教が、アイヌの人たちにどのような偏見や差別、弾圧を強いてきたか、どのような苦しみを与えてきたのかを深く考えるようになった。

この講演では苦難の突貫工事であった、幻の「本願寺道路」開削を、東本願寺が自ら願い出る事情を中心に、当時の東本願寺の置かれていた幕末の状況、蝦夷地と呼ばれていた松前や箱館の歴史的背景を、大河ドラマ「麒麟が来る」の時代まで、時間の許す限り遡ってみたい。